

第54回ミュンヘン安全保障会議 パネル討論「脅威に晒される自由な国際秩序」

河野太郎外務大臣によるステートメント

2018年2月16日

(仮訳)

第一に、安全保障面では、国際的な不拡散秩序の基礎であるNPT体制が、今や攻撃を受けています。この写真をご覧ください。これは我々が現場を捉えたもので、北朝鮮のタンカーが別のタンカーの隣に横付けしている写真です。これらの船は、6時間にわたり横付けし、「瀬取り」を行いました。北朝鮮は、米軍の朝鮮半島からの撤退や自らの体制の下での朝鮮半島の再統一といった野望を持ち続けており、核兵器をこれらの目標を実現するための重要な手段とみなしています。まさにこれゆえに、我々は核武装した北朝鮮を決して受け入れるべきではないのです。仮に核武装した北朝鮮を受け入れた場合、それはNPT体制の終わりとなるおそれがあります。我々は、北朝鮮の「微笑み」外交に目を奪われるべきではありません。北朝鮮への圧力を維持し、NPT体制を守り続ける必要があります。

第二に、力による現状変更の試みが起きています。南シナ海や東シナ海の状況を見てください。多くの現状変更の試みが成されてきており、政治的・軍事的活動のみならず、経済的・社会的活動を通じたものも増えています。例えばインフラについてお話ししたいと思います。アジア、アフリカ、中東には多くのインフラ需要があり、その需要を満たすために良質なインフラを有することは良いことです。しかし、現実には、透明性や財政的健全性、被援助国の経済を全く考慮しないインフラプロジェクトが数多くあり、このようなインフラ投資を通じて操られることのないように注意しなければなりません。

我々はかつて、経済成長は民主主義につながると信じていました。しかし現実にはそうではありませんでした。世界のGDPは20年前に比べ約2.4倍に増加しました。しかし、議会制民主主義を採っている国の数は実際には減少しています。国家資本主義による経済成長は民主主義につながりません。国家資本主義は、既存の政府に強いつながりを持つ中産階級を生み出します。こうした中産階級は、現状維持を良いものと考えます。変化をもたらす得る民主主義は歓迎されません。そのため、我々の民主主義、法の支配と基本的人権を守るためには、真の市場経済、真の資本主義、真の自由貿易が必要です。

こうした中で、日本と欧州は協力すべきと考えます。我々は現在日EU・EPAの仕上げに取り掛かっています。戦略的パートナーシップ協定(SPA)はほぼ出来上がりつつあります。そのため、日欧が共にできることは多くあります。さらに、米国は、自由な国際秩序に対する最大の貢献者であり続けてきました。今こそ我々の不可欠なパートナーである米国を、負担の分担と協力を通じて支援する必要があります。我々は自由主義と法の支配に基づく国際秩序を維持するために米国を必要としています。今こそ我々日欧が協力すべきときです。